



新芽を機械で摘み取る農家
＝2024年3月、西之表市古田

2024年産の鹿児島県の荒茶生産量は、前年比3%増の2万7千ト(シェア37%)で、1959年に都道府県別統計を開始して以来、初めて静岡県(2万5800ト)を抜き全国1位となった。農林水産省が18日公表した。一番茶は静岡に1550トの差をつけられたものの、堅調なドリンク原料需要に支えられ、二番茶後半から盛り返した。

鹿児島県によると、一番茶需要が強まり、鹿児島が二番茶後半から生産量を伸ばした。10万ト当たり生葉収量は、前年比4%増の1680トとなり、主産地平均(1200ト)を大きく上回った。

高齡化や茶価低迷で生産量が減少傾向にあった静岡は、新型コロナウイルス禍以降も減産が続き、2022

24年
2.7万ト、
抜く

鹿児島産荒茶初の首位

【問1】 見出しの空欄に当てはまる県を次のア～エから一つ選びましょう。

ア 三重 イ 宮崎 ウ 福岡 エ 静岡

【問2】 鹿児島県が二番茶後半から生産量を伸ばしたのはなぜですか。

()

【問3】 鹿児島県の荒茶の生産は、問1の県と比べてどのような特徴がありますか。グラフから読み取れることを「摘採面積」「荒茶生産量」の語句を使って答えましょう。

()

【問4】 塩田康一知事は、鹿児島県の荒茶生産をどのように支援するとコメントしていますか。二つ答えましょう。

()
()

【調べてみよう】 鹿児島県の茶について、生産の工夫や加工・販売の工夫など、茶業関係者がどのように努力しているか調べてみよう。



* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

荒茶(あら・ちゃ)＝摘んだ葉を蒸してもみ、乾燥させたままの茶 抜(ぬ)き 堅調(けん・ちょう)＝相場が上昇傾向にあること 需要(じゅ・よう) 伸(の)ばした 摘採(てき・さい) 収穫量(しゅう・かくりょう) 高齡化(こう・れい・か) 傾向(けい・こう) 禍(か)＝わざわい、災厄 後塵(こう・じん)を拝(はい)す＝人に先んじられる。後れをとること 販路開拓(はんろ・かい・たく) 支援(し・えん)